

コラム ラブちゃん日記



〈写真提供〉Evergreen Dog Field

私の名前は「ラブ」 当年11歳。人の世界では「お婆ちゃん」と呼ばれる年齢ですが「ラブおねえちゃん」と呼んでくれる人もいます。私が今の家族の元に来たのは生後70日。テレビ番組の「ラブの贈り物」を見ていた子供たちにせがまれて私を飼うことになったらしいのです。私の飼い主（以下お父さんと呼ぶ）も子供時代に父親にせがんで柴犬を買ってもらった事があり、まさしくその父親は日本橋の某デパートから買ってきたそうです。

飼ってはみたものの子供の手には負えず、わずか2年ほどでジステンパーで死んでしまった経験を持つお父さんは、私を購入するに当たっては犬種と性別（雌）だけを指定して、獣医師の先生にその選定を丸投げする事にしたそうです。

最初は座敷の中で大事に育てられていた私も、家具を噛んだり・抜け毛が多かったりで庭に放し飼いになり、寂しくて植木をかじったり、穴を掘ったりの毎日でした。

そんな私に転機が訪れたのは、いつか私に子供をさせたいと考えていたお父さんがそれを断念し、私に避妊手術を受けさせてからでした。

手術の麻酔でふらふらになった私をかわいそうに思ったお父さんが、私を家の中で飼う事にしてくれたからです。家の中にいると私の所作が気になるらしく「こほっ」と咳をすると「風邪のようだ」と病院に連れて行き、そのときは心臓病という診断でした。やがて眼のほうも白内障気味になり、昨年からは「糖尿病」という事で朝晩インシュリンの注射をしてもらっています。病気の話で盛り上がり「おばあちゃん」と呼ばれても仕方ないですね。次回からは、私の11年間の犬生生活をお話してみたいと思います。（M）